

平成24年度

施策評価マネジメントシート(平成23年度の実績評価)

記入年月日

平成 24 年 6 月 12 日

施策No.	政策名	魅力と活力のある産業社会づくり	主管課	商工観光課	主管課長名	鈴木俊男
503	施策名	観光の振興	関係課	農地整備課、文化財課、都市整備課、企画課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	桜川市に訪れる観光客	①1都、6県の人口		千人	見込値			42,003	42,005	42,006	42,008	42,010
実績値					42,326	42,420	42,337					
見込値												
実績値												
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	四季を通じて観光客に訪れてもらう	①観光客入り込み客数	人	目標値			620,000	625,000	630,000	650,000	675,000	700,000
実績値				380,500	614,800	385,500						
②やすらぎの里利用者数		人	目標値			6,000	10,000	11,500	12,000	12,000	12,000	
			実績値	12,607	11,842	6,716						
③真壁町並み(ひなまつり含む)客数	人	目標値			80,000	90,000	100,000	110,000	115,000	120,000		
		実績値	101,567	111,387	100,121							
④雨引観音客数	人	目標値			420,000	430,000	440,000	460,000	480,000	500,000		
		実績値	206,394	415,276	139,833							
成果指標設定の考え方	○・四季を通じて観光客に訪れてもらうために、①観光客入り込み客数と、代表的な集客地②「やすらぎの里利用者数」③「真壁街並み(ひなまつり含む)客数」④「雨引観音客数」を指標とした。											
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の「1都、6県の人口」は、関東地区の人口。人口問題研究所推計から年別の人口を推計。 ・①観光客入り込み客数は、「茨城の観光レクリエーション現況」から。 ・②やすらぎの里利用者数は、やすらぎの里の利用者実績数を記入。 ・③真壁街並み(ひなまつり含む)客数は、観光客動態調査(行祭事・イベント調査の真壁のひなまつり)＋町並み案内ボランティア(年4回の合計)数を記入した。 ・④雨引観音客数は、観光客動態調査から。											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> ○桜川市の歴史や自然に関心を持ち、自ら学び、地域の観光資源を発掘する。 ○来訪者に対する出会いをもてなしの心を育む。 ○地域のイベントなどに積極的に参加する。 ○来訪者に誇れる清潔で美しいまちづくりに努める。 ○観光を地域産業として育成していくことに対して、関心と理解を高めるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民や観光客の意向調査に努め、つぐばエクスプレスや北関東自動車道を活用した観光振興施策を検討する。 ○市民に対し、桜川市の歴史や自然に対する関心を高め、観光を地場産業として育成していくことに対して、市民の合意形成を図る。 ○筑波山周辺市との連携を強化し、地域情報のPR充実を図る。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	<ul style="list-style-type: none"> ○北関東自動車道の開通に伴い、東北方面、1都6県からのアクセスが開け、市内へ訪れる観光客増が見込める。 ○1都6県の人口は減少傾向にある。 ○団塊の世代が引退し、観光需要が増える。 ○健康づくりのニーズが高まり、登山、ハイキング、サイクリング客が増加する傾向にある。 ○23年4月にバス路線が完全に廃止になった。 ○震災の風評被害の影響が懸念される。また真壁地区の歴史的建造物の7割(106棟中70棟)が被害を受け、復旧に今後3年程度かかる。 ○茨城空港の利用者 ○流鏝馬競技会(4月上旬) ○山桜が雑誌で取り上げられて有名になり、今後、観光客の増加が期待できる。 ○雨引観音の本坊(事務所、休憩室、宝物展示、展望室)が整備された。雨引観音では今後概ね10年をかけて、裏山をサクラ公園として整備していく予定。マダラ鬼神祭(4月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民の観光に対する期待度は、総合計画策定時の満足度・優先度意向調査でみると、中位より下に位置しているという状態である。現在、市内には観光産業というものはなく、生計は観光に依存していない。 ○市民に対し、桜川市の魅力をPRする活動をやってほしいという声がある。 ○観光協会を社団法人化して体制を整え、観光を市の産業として位置づけるようにしたいという声がある。 ○議会から観光大使の設置や桜川市のB級グルメ考案について進めてはどうかという意見がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①観光PRの強化・充実	市内を訪れる観光客	桜川市を知ってもらう	観光客入り込み客数	実績値	614,800	385,500					
				人							
②観光資源の充実・開発	イベント、観光資源	イベント、観光資源を充実し、多くの方に訪れてもらう	桜川市で行われているイベントへの参加者数、来場者数	実績値	153,000	142,500					
				人							
③近隣自治体との連携	近隣自治体	近隣自治体と連携がとれ、観光資源のネットワーク化が図られている	連携している取組み数	実績値	3	3					
				事業							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

施策のコスト	項目	単位	22年度実績	23年度実績	24年度予算
	①本施策を構成する事務事業の数	件	35		30
②施策事業費(一般財源以外)	千円	13,482		7,100	11,900
③施策事業費(一般財源)	千円	38,126		31,165	29,502
④施策事業費の計(②+③)	千円	51,608		38,265	41,402
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	16,017		30,856	30,473
⑥計(④+⑤)	千円	67,625		69,121	71,875

5. 施策に関連する主要事業等

関連する事務事業	区分	事務事業名	摘要
	主要事業		観光資源PR事業
事務事業		真壁のひなまつり支援事業	H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位

施策番号	503	施策名	観光の振興	主管課	商工観光課
------	-----	-----	-------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	

背景・要因

- ・観光客入り込み客数は、21年度380,500人、22年度614,800人、23年度385,500人で、21年度からは5,000人増加しているが、22年度から229,300人減少している。要因は、雨引観音の観光客数の減に影響が大きい。
- ・岩瀬地区のやすらぎの里来客数が18年度14,606人から毎年減少している。周辺類似施設や、キャンプ需要減少のためと思われる。
- ・大和地区の雨引観音は22年度から23年度で275,443人の減。調査日が天候にも左右されていないが震災の影響が大きいと思われる。
- ・真壁地区街並み観光は、23年度は震災のため自粛し実施していない。(真壁町街並み案内ボランティアによるもの)
- ・真壁のひなまつりについては震災の影響がややあったものの約10万人が訪れた。臨時バスはTXつくば駅からは毎日。JR水戸線岩瀬駅からは14日間実施。岩瀬駅からの駅ハイス日連続実施などにより前年比1万人減と落ちこえた。
- ・北関東自動車道桜川筑西ICの開通により、県北、北関東地域からの観光客が増加している。高速道路1000円化の影響もあった。
- ※全体としては平成23年3月に発生した東日本大震災の影響で観光客はかなり減少している。

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った

背景・要因

- ①観光客入り込み客数の23年度目標値は620,000人に対し385,500で234,500人下回った。
- ②やすらぎの里利用者数の23年度目標値は6,000人に対し、6,716人と716人上回った。
- ③真壁町並み(ひなまつり含む)客数の23年度目標値は、80,000人に対し100,121人と20,121人上回った。
- ④雨引観音客数の23年度目標値は420,000人に対し139,833人で、280,167人下回った。
- ・桜川市全体の観光客入り込み客数は観光客動態調査によると雨引観音の客足が大幅に減った事が影響している。
- ・桜川市内で行われたイベントへ来場者数は10,500人減とほぼ前年比。
- ・近隣自治体と連携している取り組み数は前年と同数であった。

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	

背景・要因

- ・平成23年度における茨城県の入込客(延べ人数)の総数は、950万人となった。今回より、「観光入込客統計に関する共通基準(平成21年国土交通省観光庁策定)」の導入に伴い、暦年での集計となり、平成22年度まで公表してきた年度集計との単純比較はできないため、過去の集計結果について、月別調査を行わない施設を除いて、暦年ベースで集計した結果では、平成22年度で22.8%減となった。平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により、通年の入込客数は前年を大きく下回った。
- ・近隣市町村と比較では、桜川市が前年度入込客数614,800人から385,500人と大幅減。筑西市367,300人から274,700人と92,600人減、結城市87,400人から90,700人と3,300人増、下妻市1,074,400人から814,700人と259,700人の減、つくば市3,541,600人から3,161,600人と38万人の減、石岡市850,900人から1,011,300人と16万人の増である。人口規模からすると桜川市はまずまずの入込客数であると思われる。これは雨引観音約40万人、真壁のひなまつり約11万人が大きく貢献している。
- ※平成23年度 茨城の観光レクリエーション記入した。(6月中旬発表)

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか、その他の特徴は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	

背景・特徴

- ・住民の観光に対する期待度は、総合計画策定時の満足度・優先度意向調査でみると、平均よりどちらも低く、要注意項目に位置しているという状態である。現在、市内には観光産業というものはなく、生計は観光に依存していない。

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題

- ・23年度において重点的に取り組んだ対象地区は、県外(1都6県福島)で、イベント、観光資源を充実し、多くの方に訪れてもらうことを重点的に取り組んだ。貢献度評価の結果、貢献した事務事業は、「真壁のひなまつり支援事業」、「観光協会支援事業」、「御嶽山遊歩道管理事業」、「県自然歩道利用促進協議会参画事業」、「笠間・吾国・愛宕岩立自然公園連絡協議会参画事業」が施策の成果向上に貢献した事業といえる。
- ・「真壁のひなまつり支援事業」は、運営実施母体である『真壁のひなまつり実行委員会』に対しての支援活動として、茨城県観光物産課、首都圏新都市鉄道(つくばエクスプレス)、東武鉄道、関鉄バスと連携し交通機能PRの拡充を図りました。具体的にはポスター、チラシの作成配布、臨時バスの運行、ホームページ等を活用した首都圏に向けての広域的なPR活動を実施しました。なお、ひなまつり会場における交通安全立哨案内、駐車場整理等については商工観光課以外にも多くの市職員の協力を得ています。
- ・「御嶽山遊歩道管理事業」は、御嶽山遊歩道沿いの除草や倒木撤去、トイレ清掃を行う事業である。ここは近年ハイキングコースとして人気を集めており、県内外から多くのハイカーが訪れている。ハイカーからの声では、歩きやすさやきれいになっていることが人気の理由のようで、この事業を推進することは更なる来訪者増に繋がるものである。
- ・「県自然歩道利用促進協議会参画事業」は、茨城県内にある関東ふれあいの道の整備及び管理を行う事業である。桜川市には関東ふれあいの道が6コースあり、全てのコースでハイカーが増えている状況である。御嶽山から雨引山へのコースや筑波山を登るコースが特に人気である。この事業を推進し、それぞれ特徴のあるコースの良さをPRしていくことは更なる来訪者増に繋がるものである。
- ・「笠間・吾国・愛宕岩立自然公園連絡協議会参画事業」は、笠間・吾国・愛宕岩立自然公園の保護管理及び観光事業の振興を図ることを目的に、茨城県や笠間市、石岡市と共同で実施している事業である。内容として区域内のハイキングコースの調査及び整備や看板設置などを行っている。桜川市には旧岩瀬地区の山間部が笠間県立自然公園に指定されている。近年ハイカーが増加してきており、この事業を推進することは周辺自治体と連携した広域での来訪者増に繋がるものである。
- ・「観光協会支援事業」は、市補助金5,000,000円(桜まつり中止のため100万円減で補助金要)を岩瀬支部へ2,507,000円、真壁支部へ2,393,000円を支出しそれぞれの地区で実施する事業に対し助成を行った。主なものとして岩瀬地区では納涼大会、駅前の祇園祭、(桜まつりは震災のため中止)真壁地区では真壁祇園祭、まかべ夜祭、かたて祭り、菊花展示大会、駅からハイキングなどへの支援を実施。その他市内全域を対象とした事業の支援としては桜川のさくらにたざざわっている市民団体や流鏝馬競技実行委員会などに対して後方あるいは側面からの支援を行った。またJR主催の駅からハイキング、県主催するワンデープランなどの支援も行った。
- ・「漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会参画事業」は、テレビ放送等宣伝事業で真壁のひなまつりが、平成24年2月10日に磯山さやかの旬刊いばらきで放映された。また、地域支援事業として広域ブロック観光宣伝支援事業の協賛を受け筑波梅林とひなまつり周遊バス運行事業(桜川市・つくば市)並びにりんりんロード利活用促進会議(土浦市、つくば市、桜川市)においてポスター、チラシの作成配布を行った。更に広域周遊促進事業として春と秋の2回ワンデープランを実施した。
- ※筑波梅林とひなまつり周遊バス運行事業 → 事業業費548,100円 桜川市観光協会150,000円 つくば市観光コンベンション協会150,000円 漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会248,100円
- ・「観光パンフレット作成配布事業」は、桜川市観光案内パンフレット20,000部を作成し市内の観光拠点へ設置し、観光宣伝PR事業を行った。
- ※緊急雇用対策事業(観光協会へ委託)でハイキングマップ10,000部作成。
- ・「新たな観光スポットの構築」は、今まで埋もれていた既存の観光資源に対しスポットあてる事が「新たな観光スポットの構築」ととらえる事ができると考えます。平成23年3月に磯部稲村神社～平澤地区のヤマザクラが婦人雑誌の家庭画報(日本版10万部、国際版5万部発行)に24ページにわたり特集され、平成24年5月には多くのお客様にお出で頂くことができました。地元への受入体制や官民の役割分担などこれから解決しなければなりません。大和地区の薬王院のみじ、大和流鏝馬競技大会も人気が高まってきており、今後観光資源としての成長が期待できます。

8. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策全体	<ul style="list-style-type: none"> ・北関東道やつくばエクスプレス、茨城空港等の新たな交通インフラを利用した観光客の増加に寄与する、既存周辺施設を利用した観光PRを検討していく必要がある。 ・新たな観光資源に関わる市民団体との連携・支援の検討を行っていく必要がある。 ・観光資源への交通手段の確保についての検討が必要である。 ・観光客数は増加傾向にあるものの、地元への経済効果についてはまだ不十分であるため、今後は観光振興の取り組みによって、経済効果をもたらす方策の検討が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水郷筑波国定公園・笠間県立自然公園の指定を受けている豊かな自然環境、国の天然記念物・名勝指定の「桜川のサクラ」や100軒を超す登録文化財を有する真壁の町並み、多くの観光客が訪れる雨引山等の歴史・文化資源を活かし、観光を桜川市の産業とするよう育成・強化を図ります。 ・既存の観光拠点の整備拡充を図るとともに、イベントや観光宣伝の強化により、人と人のふれあいを大切にした体験型の観光地の形成を図ります。 ・また、つくばりんりんロードや北関東自動車道の活用、さらには筑波山周辺地域の連携により広域観光ルートの開発に取り組みます。
基本事業	①観光PRの強化・充実	市のホームページや観光パンフレットによる情報発信をさらに強化していくとともに、マスメディアや観光キャンペーンを積極的に活用し、観光PRの充実を努めます。
	②観光資源の充実・開発	既存の観光資源の整備と相互の連携をさらにすすめ、新たなイベントや観光資源の充実を努めます。また、イベント主催団体、市民団体を積極的に支援していきます。
	③近隣自治体との連携	近隣自治体が加入している協議会を活用し、イベント会場や観光案内所での合同PR活動を推進し、観光資源のネットワーク化を進め、通過型から滞在型に移行できるよう努めます。